

第8回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成19年3月19日(月)13:30~15:00

項目	発言者	意見	内容	対応
白岩川水系河川整備計画				
治水	A委員	計画規模について	1/50の計画規模は、近年の気象状況(異常豪雨、低気圧等)から見ると小さいのではないかと。	1/50は全国的にみても高い数字であり、現計画での整備を進めたい。今後大きな災害等あれば計画規模の引き上げを検討してまいりたい。
	B委員	河道計画について	魚類相を豊富にするため、河口部が深くなるようにして欲しい。	河口部は掘り下げる計画となっている。ただし実施時期は河川整備全体の進捗を考慮し決定したい。
	C委員	自然再生について	川の一部を河川改修で多自然としても、上流から下流まではそうになっていない。また海や田んぼとの生物間の交流も大事であり、流域全体を視野に入れて自然再生に取り組むことが大事である。	ご指摘の自然再生については、学識経験者や関係機関の意見を聞きながら検討してまいりたい。
	D委員	治水対策と環境整備のバランスについて	治水対策と環境整備が両方バランスよく成り立つことには矛盾があり、難しい問題だと思う。	必要な治水上の安全性を確保しつつ、動植物の生息・生育環境や美しい自然景観などに配慮してまいりたい。
管理	E委員	情報公開について	住民が川をよく知っていると洪水時の被害が少なくなる。住民に情報を出すことが必要。	河川整備基本方針・河川整備計画や降雨量、河川の水位等をインターネットで公開しているところであるが、さらに情報提供の充実に努めてまいりたい。また併せて市町村のハザードマップの整備の支援など、ソフト対策にも努めてまいりたい。
	F委員		災害時に各関係機関がいかに早く情報を流すかが大事である。	
教育	D委員	河川環境教育について	安全や環境などが川でも検討されていることを教育的な形で還元していく整備計画として欲しい。	現場見学会などの開催により、子ども達に対して川に関する情報をPRしてまいりたい。
	G委員	住民意見の反映について	地域住民が行政と一緒に川づくりを考えられるよう計画段階に取り入れて欲しい。	各地域において住民や河川愛護団体、有識者、行政(県、市町村)などで構成する「川を語る懇談会」を開催し、河川整備等に地域住民の意見の反映に努めてまいりたい。
環境	H委員	親水性について	白岩川は川に下りにくい。住民との川の触れ合いが少なくなる。	整備にあたっては、親水性向上を検討してまいりたい。
	I委員		水と親しめる整備計画として欲しい。	